

■ 背景・経緯

- 「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」(令和3～7年度)(令和3年3月31日文部科学大臣決定)では、国立大学等のキャンパス全体で地域・社会や産業界等の多様な担い手が協働し新たな価値を生む「共創」活動を支える「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」を、ソフト・ハード一体で整備することを提示。そのためには、キャンパス・施設の老朽改善整備やライフライン更新等が必要。
- 令和3～5年度において、「国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議」（主査：西尾章治郎 大阪大学総長）を開催し、昨年10月に最終報告を取りまとめ、イノベーションコモンズの具体化に向け、基本的な考え方等の整理や、国が取り組むべき方策、各国立大学等の取組や地方公共団体・産業界への期待について提言。

■ 設置目的

- 現行の5か年計画は、令和7年度までのものであるため、次期計画の策定に向け、大学施設、高等教育に関する有識者や、知事会や経済団体などの関係団体代表者を構成員とする協力者会議を設置。
- これまでの施設整備5か年計画に関する議論や中央教育審議会大学分科会における、急速な少子化の進行を踏まえた今後の高等教育の在り方についての審議内容等も参照しながら、次期計画における共創拠点に係る新たな視点や実装化等についてご議論いただき、次期計画策定に向けた考え方について取りまとめる予定。

■ 次期計画策定に向けた全体スケジュール案



(※) 検討の進捗等については国立大学協会の会議等において適宜報告。

「今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議」について

■次期計画策定に向けた主な論点（案）

○次期計画策定に向けた**論点**としては

- ✓ ソフト・ハード一体となったキャンパス全体の共創拠点化の更なる推進
→**リスキングを含むリカレント教育等の多様な主体に開かれた魅力ある環境整備** など
- ✓ キャンパス全体の強靱化（地域の防災拠点としての国立大学）
- ✓ 施設整備に活用できる予算の拡大などの財源の多様化
- ✓ 持続可能な維持管理の観点も含めた適切な資産マネジメント
- ✓ 附属病院の機能強化 などが考えられる。

○このうち、**共創拠点の実装化に向けた視点（特に重点的に議論すべき論点(案)）**としては

- ✓ 将来の社会変革を見据えた共創拠点の整備
→**地方公共団体（市町村含む）や産業界との共創拠点の整備充実、
地域と連携した地域産業振興・スタートアップ創出のための拠点整備** など
- ✓ 研究開発のニーズに機動的に取り組み続けられる共創拠点の整備
→**多様な博士人材の育成や研究活動を支える施設整備** など
- ✓ 激甚化・頻発化する気象災害や切迫する大規模地震等への対応に資する共創拠点の整備 などが考えられる。

- 国立大学法人等施設は、昭和40年代から50年代にかけて整備された**膨大な施設の更新時期が到来しており、安全面、機能面、経営面**で大きな課題を抱え、対応が急務

今後、各大学が新しい教育研究に対応していくにあたって、施設面において以下のような課題がある

安全面の課題 (事故発生率の増加)

- ガス配管や排水管の腐食、外壁剥落、天井落下、空調停止などの事故発生

機能面の課題 (教育研究の進展や変化への対応が困難)

- イノベーションを導くオープンラボ、学修意欲を促進するラーニング・コモンズ等のスペースの確保が困難
- 教育研究機能の低下による国際競争力、信頼性の低下
- 電気容量、気密性不足等による施設機能の陳腐化、建物形状による用途変更の制約

経営面の課題 (基盤的経費を圧迫)

- 老朽化した設備等による光熱水などのエネルギーロスや維持管理経費の増加
- 頻繁に必要な修繕への対応など、大学の財政負担が増加

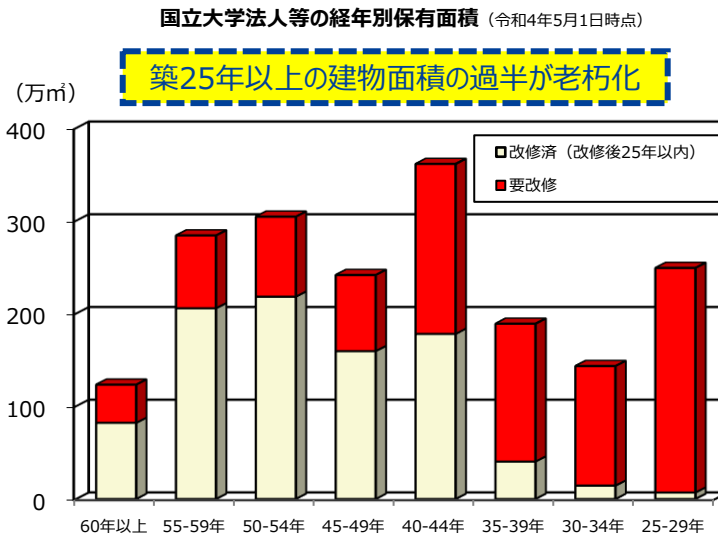
施設の老朽化が進行



外壁の落下の危険



過密な研究室
(機能低下と事故)



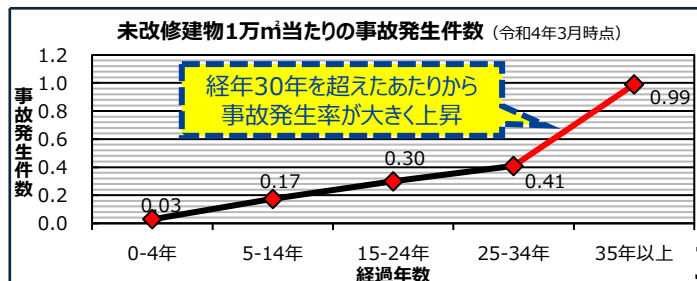
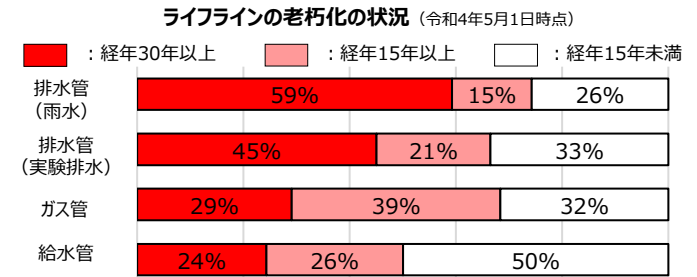
耐用年数を過ぎたライフライン



配管の腐食



配管の破損による
水漏れ



第6期科学技術イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）（抄）国立大学法人等（国立大学法人、大学共同利用機関法人及び国立高等専門学校を指す。以下同じ。）の施設については、キャンパス全体が有機的に連携し、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが共創できる拠点「イノベーション・コモンズ」の実現を目指す。こうした視点も盛り込んで国が国立大学法人等の全体の施設整備計画を策定し、継続的な支援を行うとともに、国立大学法人等が自ら行う戦略的な施設整備や施設マネジメント等も通じて、計画的・重点的な施設整備を進める。

基本的な考え方

▶国立大学等に求められる役割

○国立大学等の役割として「教育研究の機能強化」と「地域・社会・世界への貢献」が求められており、そのためには社会の様々な人々との連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点の実現を目指すことが必要。

▶施設整備の方向性

キャンパス全体をイノベーション・コモンズ（共創拠点）へ

産業界との共創

- 共同利用できるオープンイノベーションラボの整備
- キャンパスを実証実験の場として活用



他大学や企業等とのオープン・ラボ

構内道路を活用した実証実験
出典：https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/topics/view/1152

教育研究の機能強化

- 学修者中心に捉えた人材育成
- 世界をリードする最先端研究の推進、研究の活性化
- 先端・地域医療を支える病院機能充実、国際化のさらなる進展



学生同士のアクティブ・ラーニング

ICTによるコミュニケーション

国際寮における日常的な国際交流

地方公共団体との共創

- 災害時にも活用できるインフラの強靱化
- 地方創生の連携拠点整備
- 地域との施設の相互利用



地元企業との交流会

地域への公開講座

<イノベーション・コモンズ実現に向けた今後の取組>

- 国立大学等施設は全国的に配置された我が国最大の知のインフラであり、最大限活用。
- 効率的な施設整備により老朽改善整備の加速化とともに新たなニーズに対応した機能強化を図る。
- ポストコロナ社会を見据えたDXの加速化をはじめ、国土強靱化やカーボンニュートラルに向けた取組、バリアフリーなども含めダイバーシティに配慮した施設整備を推進するとともに、施設マネジメントの取組と多様な財源の活用を一層推進。

整備内容

総面積：860万㎡ 所要経費：約1兆500億円（多様な財源を含む）

【老朽改善整備】 約785万㎡（大規模 225万㎡ 性能維持 560万㎡）

保有する施設を最大限に有効活用するため

- 従来の改修サイクルを長寿命化のライフサイクルへ転換
- 「戦略的リノベーション」による老朽改善で機能向上と長寿命化を図る

【ライフライン更新】 事故の未然防止・災害時の継続性の確保
配管・配線：約1,900km 設備機器：約1,800台

【新增築整備】 新たな教育研究ニーズへの対応 約30万㎡

【附属病院整備】 先端・地域医療の拠点を計画的に整備 約45万㎡

実施方針

○ 国立大学等の活動の重要な基盤となる施設整備は「未来への投資」であり、文部科学省と国立大学法人等が連携し取組を推進。

4